

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2024年12月)

2024年12月2日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

今月の景気判断～持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 関西経済は、持ち直しの動きがみられる
- 9月の生産は前月比+0.5%と2ヵ月ぶりにプラスとなった。均してみると横ばい圏で推移している
- 10月の実質輸出は6ヵ月ぶりに低下。均してみると横ばい圏で推移している
- 9月の名目賃金指数は、前年比+4.0%と10ヵ月連続でプラスとなった。実質でも同+0.9%と2ヵ月連続でプラスとなった
- 10月の小売販売額は、名目では前年比でプラスとなったが、実質では2ヵ月連続でマイナスとなった

| 項目 | 現状 |
|-------------|----------------|
| 景気全般 | 持ち直しの動きがみられる |
| 生産 | 横ばい圏で推移している |
| 輸出 | 横ばい圏で推移している(↓) |
| 設備投資 | 増加している |
| 雇用 | 持ち直しの動きがみられる |
| 賃金 | 持ち直している |
| 個人消費 | 持ち直している |
| 住宅投資 | 横ばい圏で推移している |
| 公共投資 | 高めの水準となっている |

注：()内は前月からの変化の方向

輸出は「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

生産

9月の鉱工業生産(関西)は前月比+0.5%と2カ月ぶりにプラスとなった。均してみると横ばい圏で推移している。電気機械、汎用・生産用・業務用機械が減少したが、電子部品デバイス、化学が増加した。

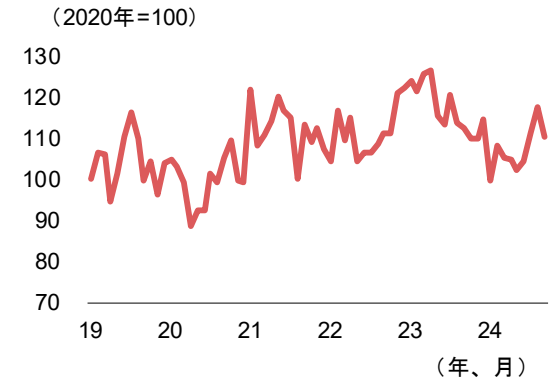
鉱工業生産指数



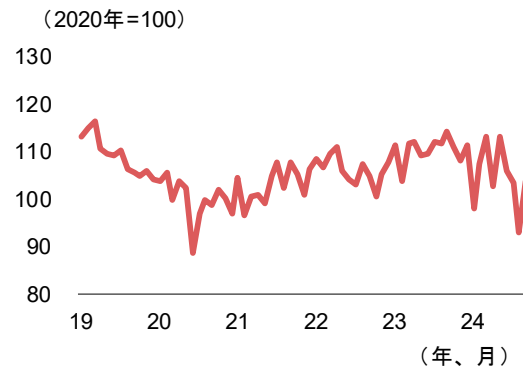
電子部品デバイス



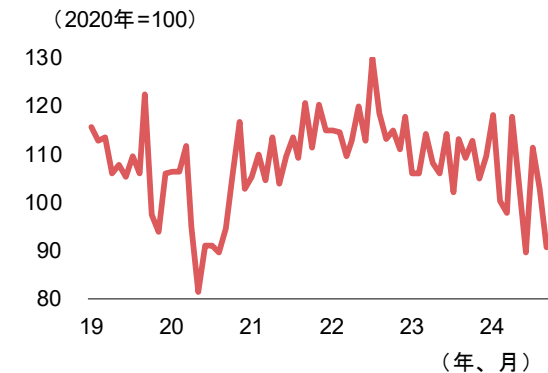
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



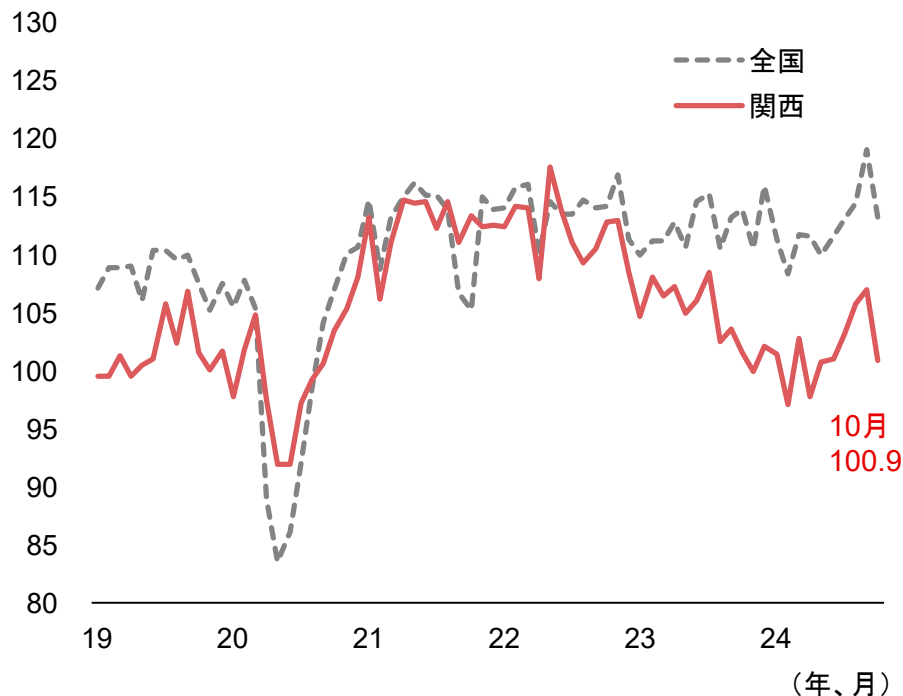
(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

10月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-5.7%の100.9と6カ月ぶりに低下。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による10月の輸出数量指数(季節調整値)は3カ月ぶりに低下した。

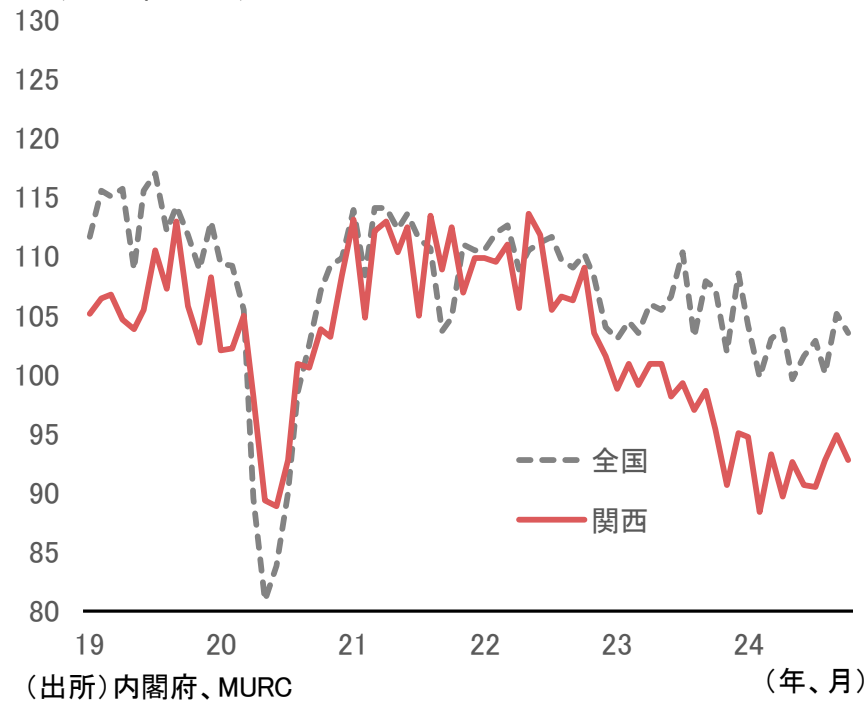
実質輸出指数(季節調整値)

(2020年=100)



輸出数量指数(季節調整値)

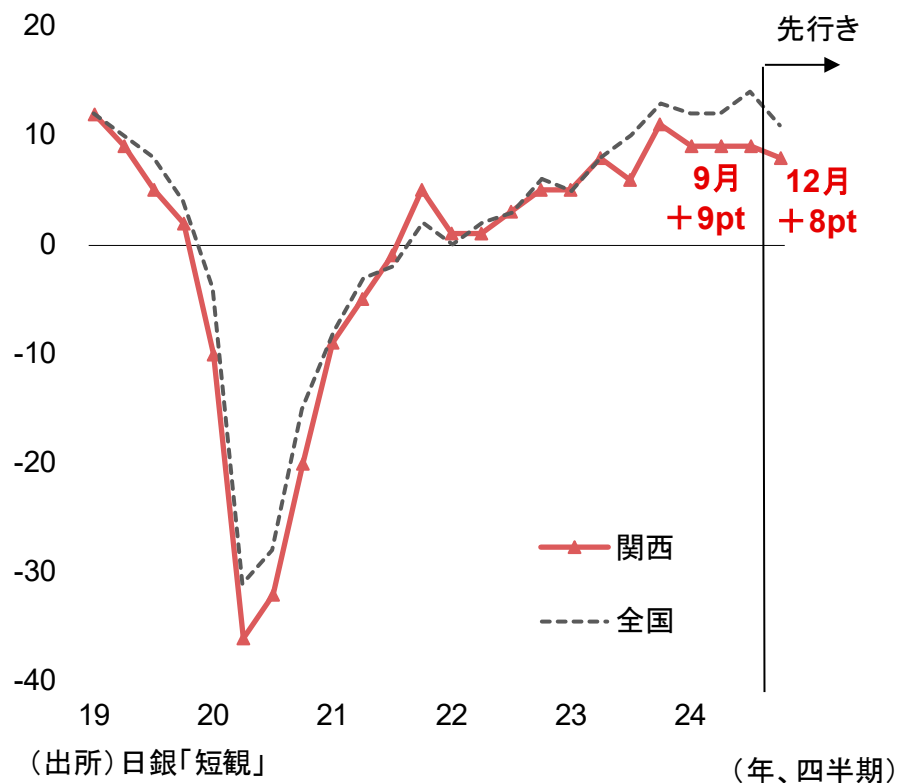
(2020年=100)



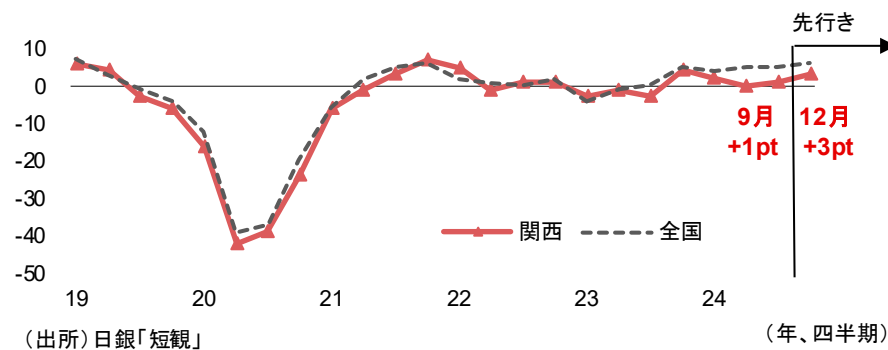
企業景況感(日銀短観) ※以下は10/1公表の9月調査。12月調査は12/13公表予定

日銀短観9月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+9ptと3月6月調査と同水準。製造業は+1ptと1pt上昇、非製造業は+19ptと2pt上昇した。業種別に見ると、製造業では電気機械が大幅に上昇した。非製造業では引き続きすべての業種で「良い」超となった。先行き(12月)については、製造業は上昇、非製造業は低下が見込まれている。

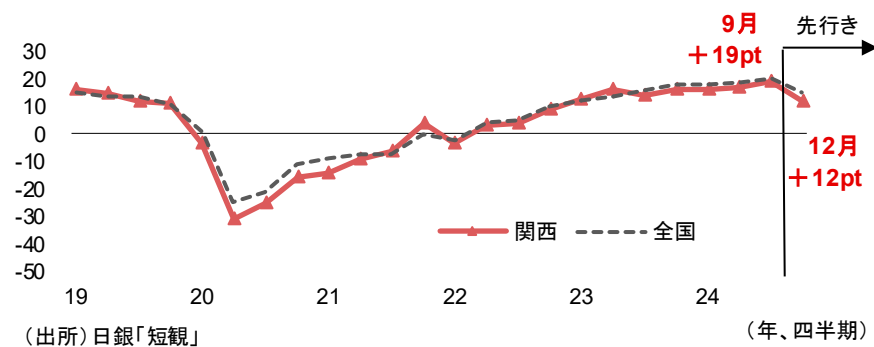
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



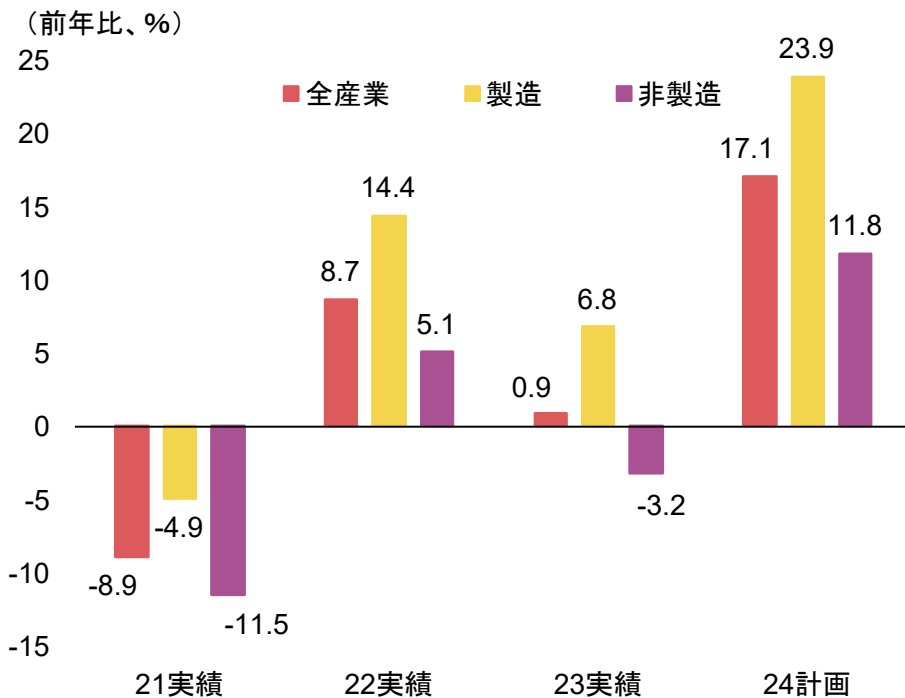
同 非製造業



設備投資※以下は10/1公表の9月調査。12月調査は12/13公表予定

日銀短観9月調査によると、24年度の設備投資は前年比+17.1%と高い伸びが見込まれている。製造業では、はん用・生産用・業務用機械、金属製品等が、非製造業では、建設、宿泊・飲食サービス等が高い伸びを見込んでいる。

設備投資 実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(年度)

(注)設備投資は、含む土地投資額

設備投資額(前年比%)

| | 23年度 実績 | 24年度計画 | | |
|------|------------|--------|--------------|------|
| | | 今回調査 | (前回調査との差異) | 前回調査 |
| 全産業 | 0.9 | 17.1 | (0.7) | 16.4 |
| 製造業 | 6.8 | 23.9 | (-0.8) | 24.7 |
| 非製造業 | -3.2 | 11.8 | (1.6) | 10.2 |

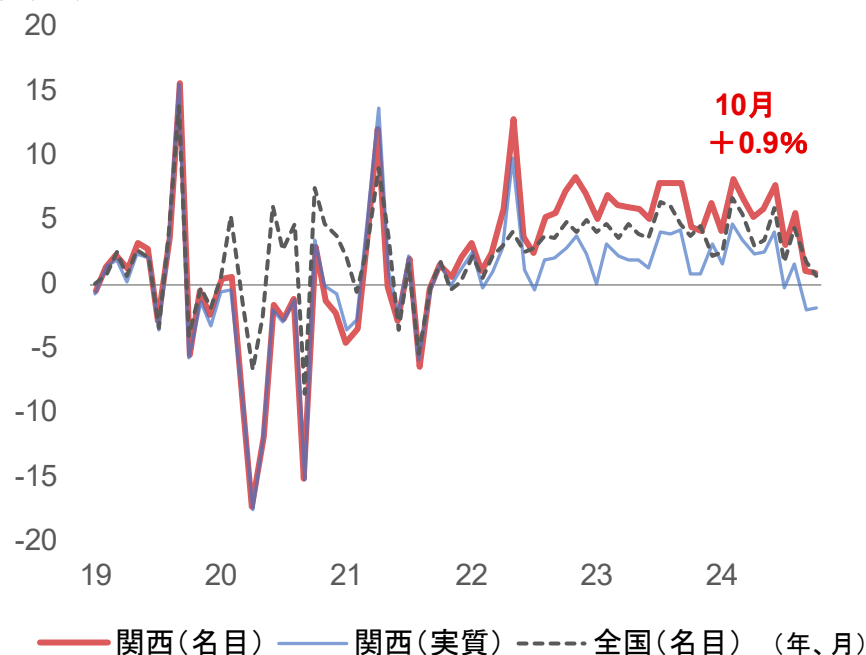
個人消費(小売売上、自動車販売)

10月の小売販売額(名目)は前年比+0.9%と37ヵ月連続でプラスとなった。実質値を試算すると、10月は前年比-1.8%と2ヵ月連続でマイナスとなった。

10月の新車販売は、前年比+3.9%と4ヵ月連続でプラスとなった。軽自動車はマイナスとなったが、普通車、小型車がプラスとなった。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

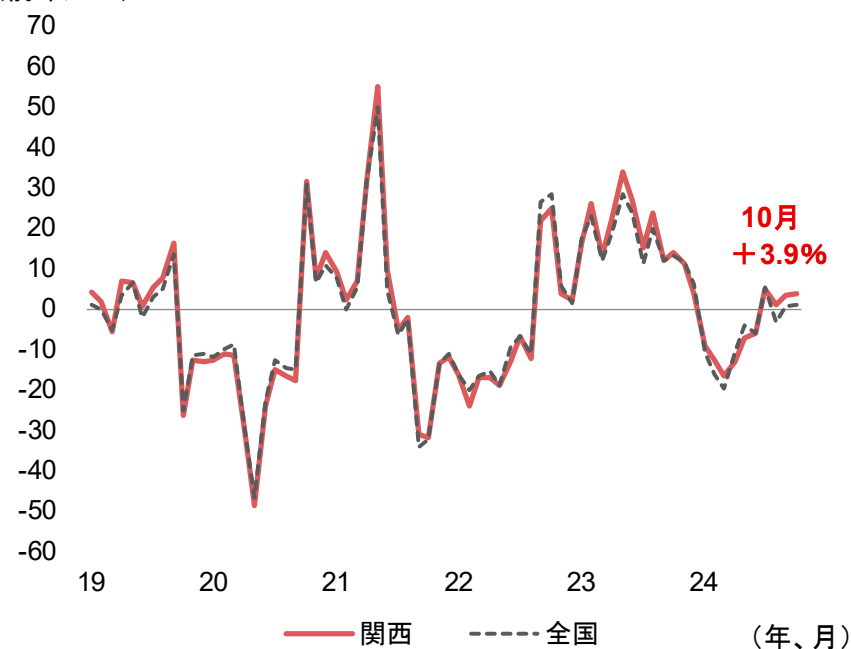


(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

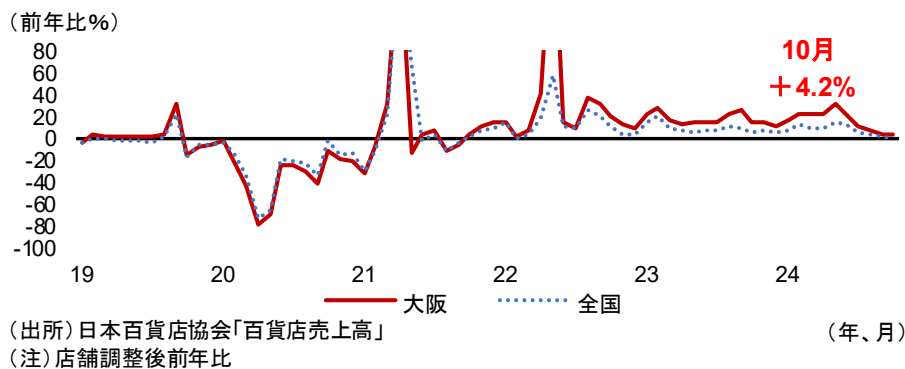


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

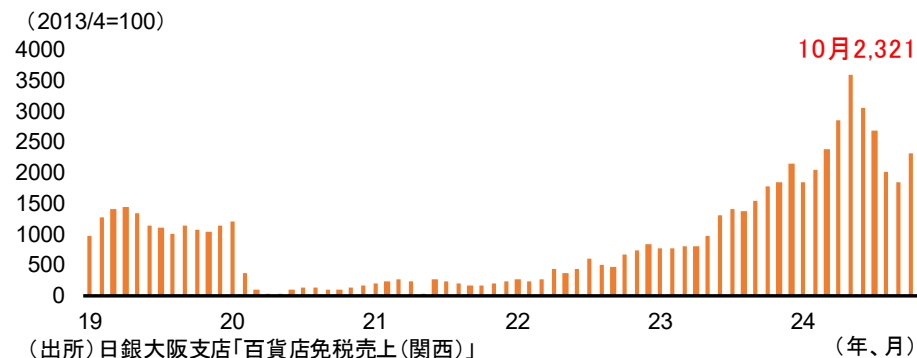
個人消費(業態別)

10月の百貨店売上(大阪)は、前年比+4.2%と37ヵ月連続でプラスとなった。10月の京阪神百貨店免税売上指数は前年比+31.0%増の2,321と5ヵ月ぶりに伸び率が増加した。

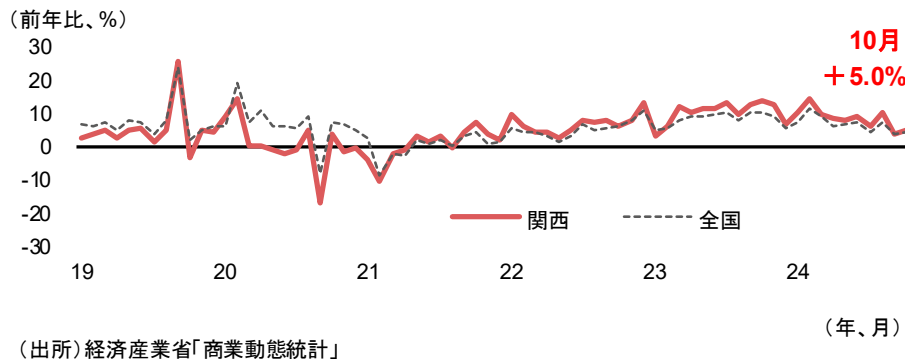
百貨店売上高



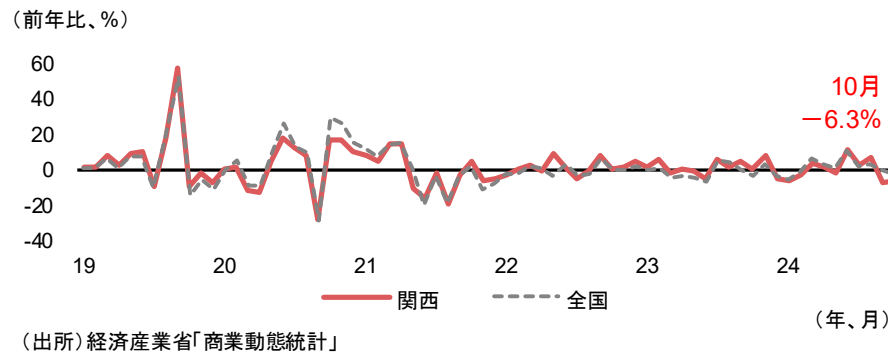
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

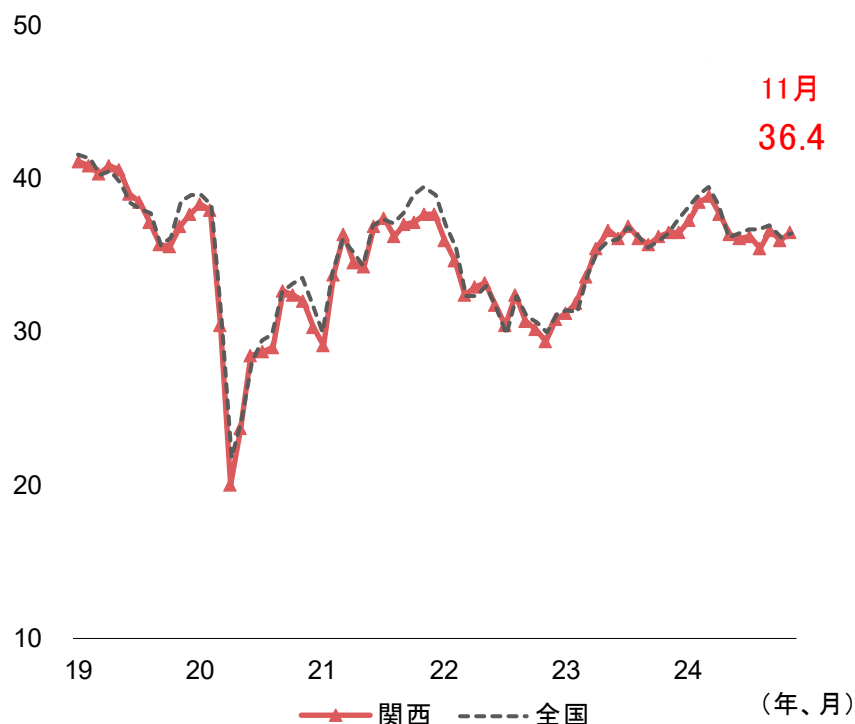


マインド・景況感

11月の消費者態度指数(季節調整値)は36.4と2カ月ぶりに上昇した。

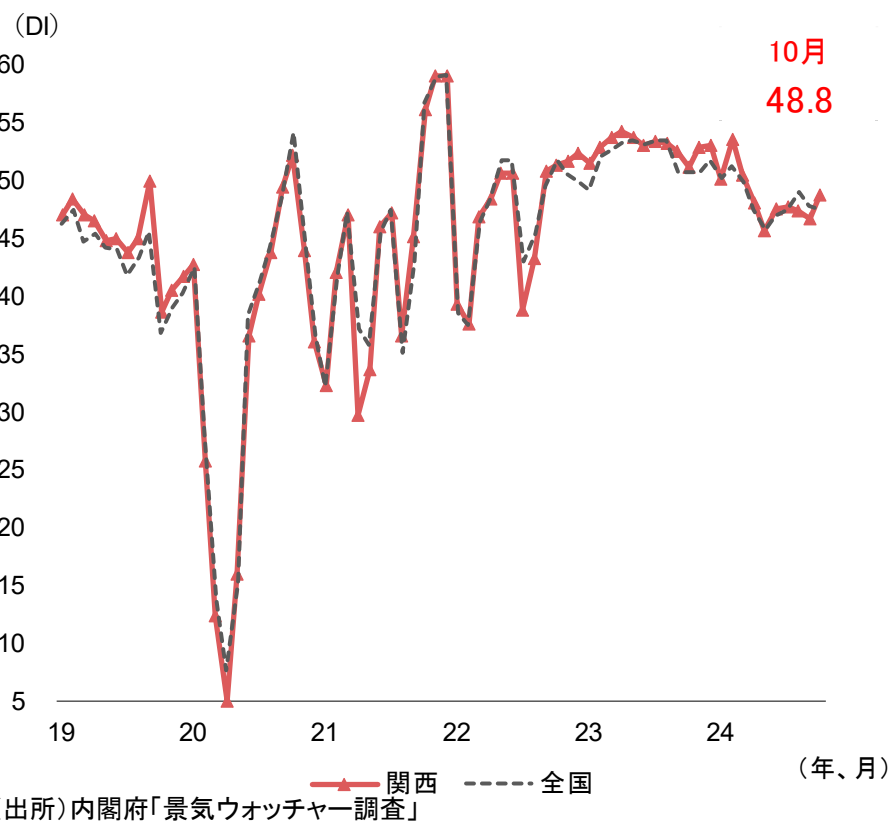
10月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は前月差2.1pt上昇の48.8となったが、横ばいを示す50を7カ月連続で下回った。価格上昇の影響で販売量が減少しているとの声が散見される。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

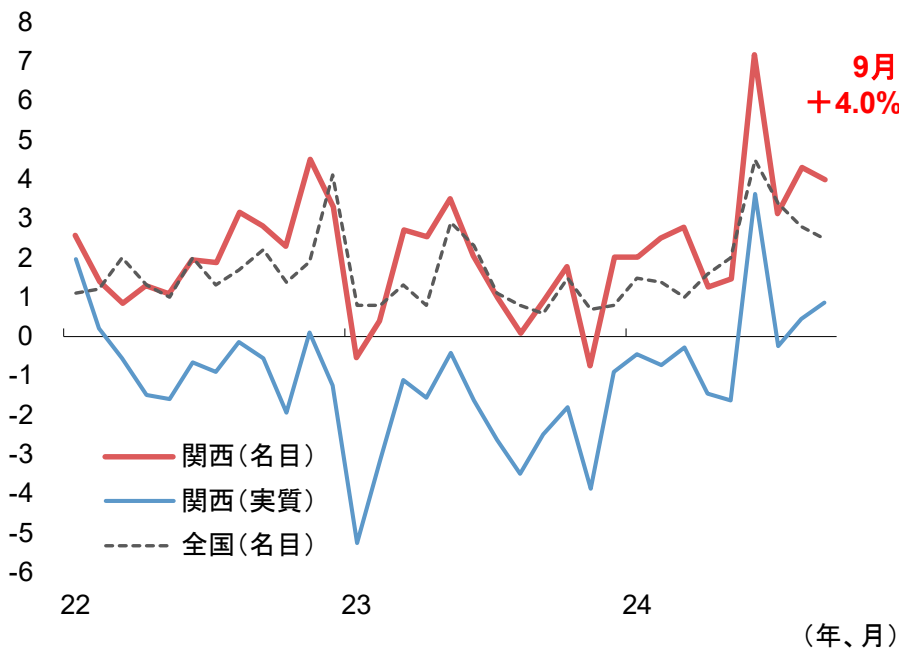
9月の関西の名目賃金指数は、前年比+4.0%と10ヵ月連続でプラスとなった。実質でも同+0.9%と2ヵ月連続でプラスとなった。

10月の有効求人倍率は1.15倍と前月とほぼ同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

24年7-9月期の失業率は2.7%と前期から小幅上昇、就業者数は増加した。

名目賃金指数

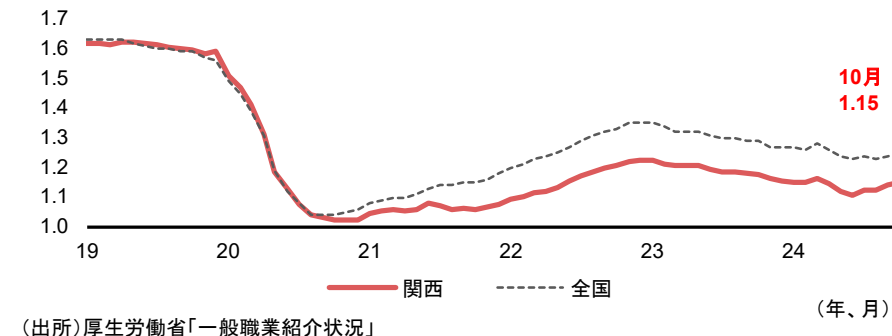
(前年比、%)



(出所) 関西2府4県の名目賃金指数(現金給与総額)、常用雇用者指数よりMURC作成
 (注) 「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

有効求人倍率(季節調整値)

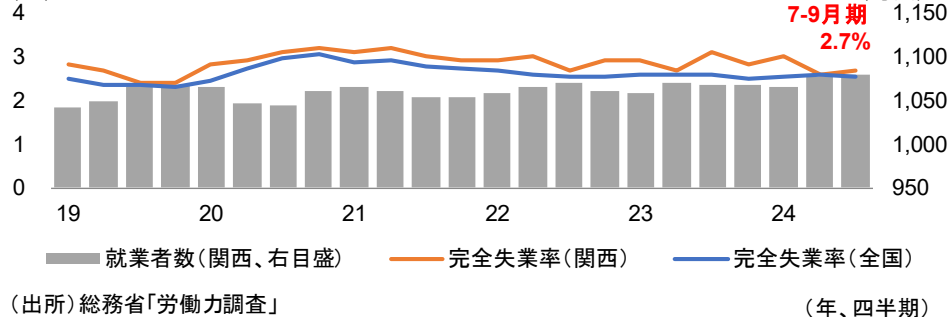
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

(%)



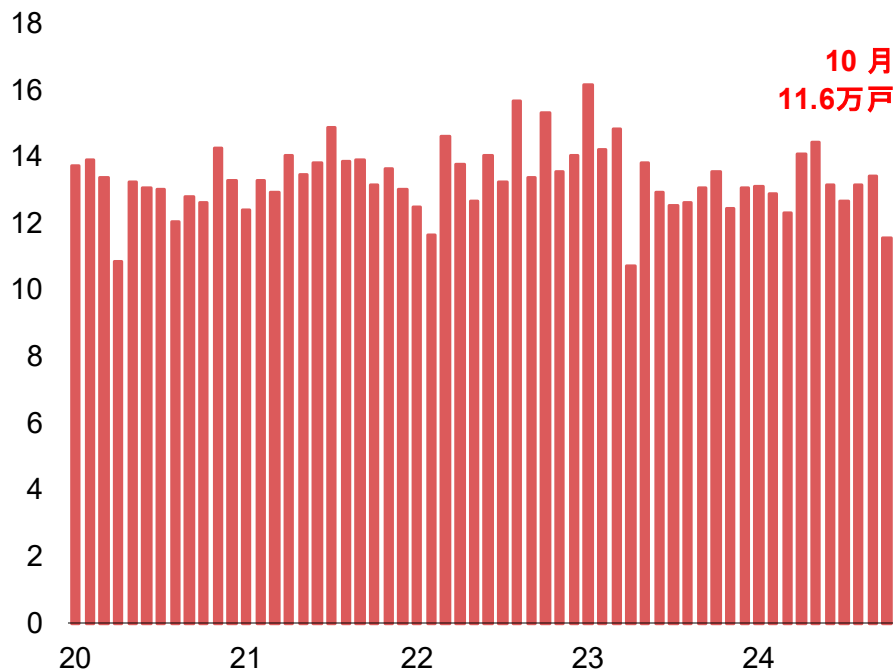
(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

10月の住宅着工は、季調・年率11.6万戸と3ヵ月ぶりに前月比で減少した。前年比では、持家が増加したが貸家、分譲が減少し、全体で-14.0%と3ヵ月ぶりに減少した。関西の住宅投資は、均してみると横ばい圏で推移している。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)

(万戸)

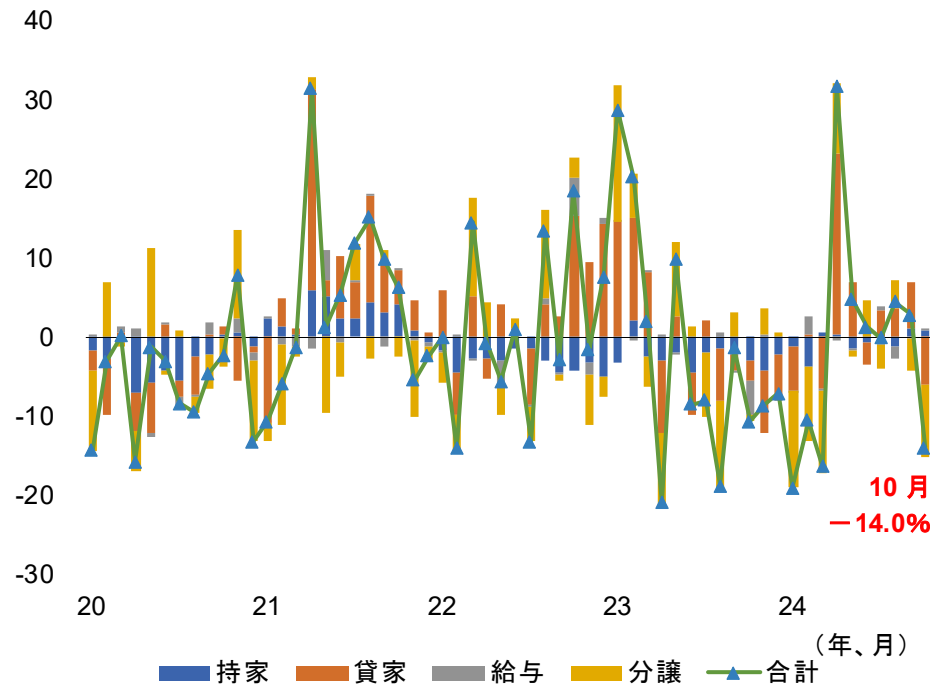


(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(年、月)

新設住宅着工戸数(前年比)

(%)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

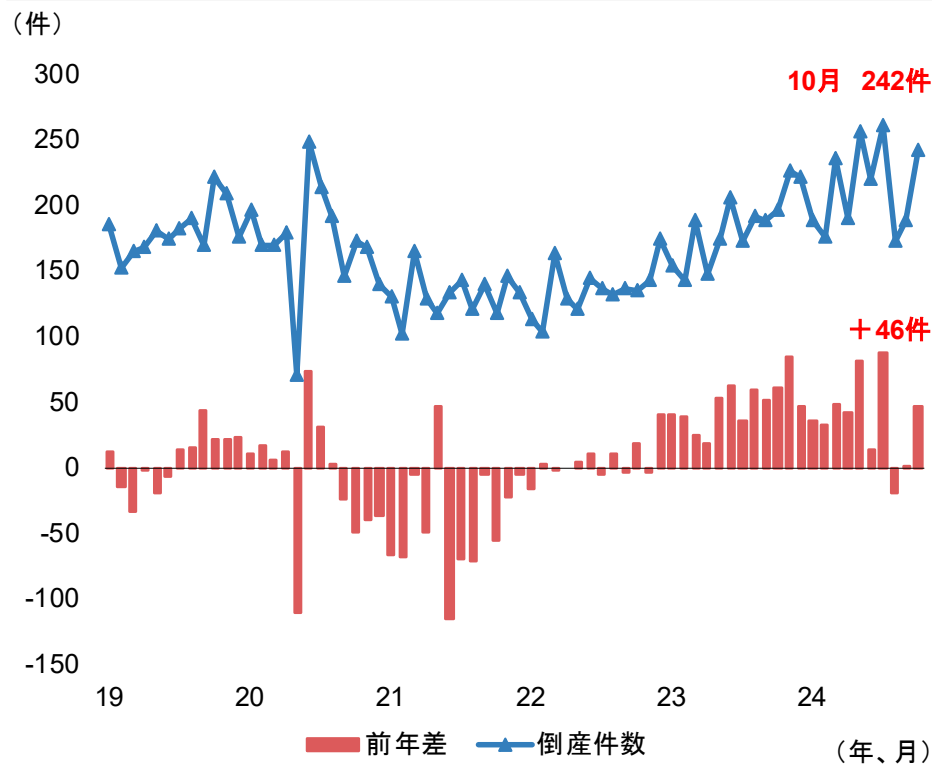
(年、月)

■ 持家 ■ 貸家 ■ 給与 ■ 分譲 ▲ 合計

倒産

10月の倒産件数は242件と前年から46件増加。概ねコロナ前程度の水準で推移している。

倒産件数

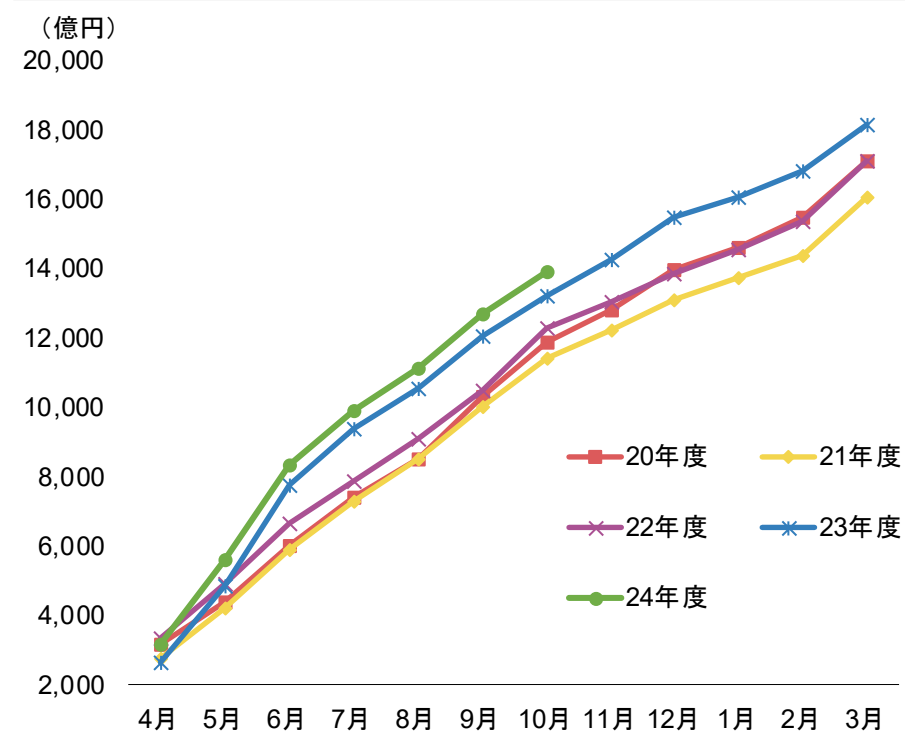


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

10月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+5.2%の1兆3,921億円。高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー